

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第346回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

京都市は言わずと知れた日本有数の観光地で、金閣寺や伏見稲荷など由緒ある社寺が日本らしさを醸し出し、国内外から多くの観光客が訪れる。観光名所は市内各所にあるが、清水寺や建仁寺などがある東山は代表的な観光スポットだ。その東山を歩いた際、写真の建物の前を通った。最初は気付かなかったが、

景観に配慮した警察署

駐車している車や監視に当たる人を見て、初めて警察署と分かった。建物は東山警察署で、京都を代表する繁華街の祇園もこの警察署が管轄し



川崎 優太
不動産学部3年

ている。

一見しただけでは警察署と気付かないこの建物の第1の特徴は、立地だ。警察署は大通りに面することが一般的だが、この建物は大通りから少し入った位置にある。緊急車両の出入りや治安への貢献を考えれば、大通りに接するほうが好都合と考えたため不思議さを感じた。

第2の特徴は、建物の外観だ。東京や埼玉など首都圏の警察署の単調

低層で伸びやかなデザインの方で、気になる点もあった。まず、屋根とひさしのラインが単調なことだ。部分的に高さを変える、外壁の位置に凹凸を付けるなど、外観に変化を持たせると躍動感が生まれたのではないだろうか。

次に、安全を確保する施設にかかわらず、あまり広くはない前面道路に対して敷地いっぱいを使っていることだ。最近では民間のマンション開発でも道路沿いの提供を求め、交通の利便と安全の向上を図ることも多い。公的施設でもあり、車1台分程

京都らしい景観へ改善も

で堅苦しい外観とは異なり、旅館にも見える優しいデザインだ。数寄屋風の切妻屋根の建物の平側を道路沿いに見せる方法で、歴史的な町屋の街並みに通じる景観を生み出し、周辺の建物や街全体の雰囲気になじんでいる。また、2階建ての低層の軒の線が奥に見える山の稜線とも調和し、京都の自然的な景観にもなじんでいる。

度敷地を歩道状に整備するなど、歩行者の安全、安心に配慮があつてもよいのではないだろうか。更に、駐車場のフェンスである。敷地いっぱいには立っていることに加え、材質感が乏しいことが残念に思える。建物とのバランスから言えば、より存在感の高いものが望ましく、警察という機能からは、より信頼感のあるものが望ましい。外国人



一見、警察署とは思えない外観

が訪れることも多くなると思われる。坂道を登ってまず接する部分でもあり、植栽にするなど京都の警察らしい景観への改善はこれからでも可能ではないだろうか。

【教員のコメント】

緊急時の安寧を守る役割を持つ公的施設は、構造安全性の確保が優先事項である。その他は経済設計を求められ、造形美を追究する余地が縮小する側面は否定できないが、PREの視点を持って、使い続ける中で利用智を加えることは可能である。